

# 学際研究の芽吹きを支える効果的な支援のあり方とは？

○藤田 弥世<sup>1</sup> (fujita@kura.kyoto-u.ac.jp), 下重 幸則<sup>1</sup>, 白井 哲哉<sup>1</sup>, 宮野 公樹<sup>2</sup>

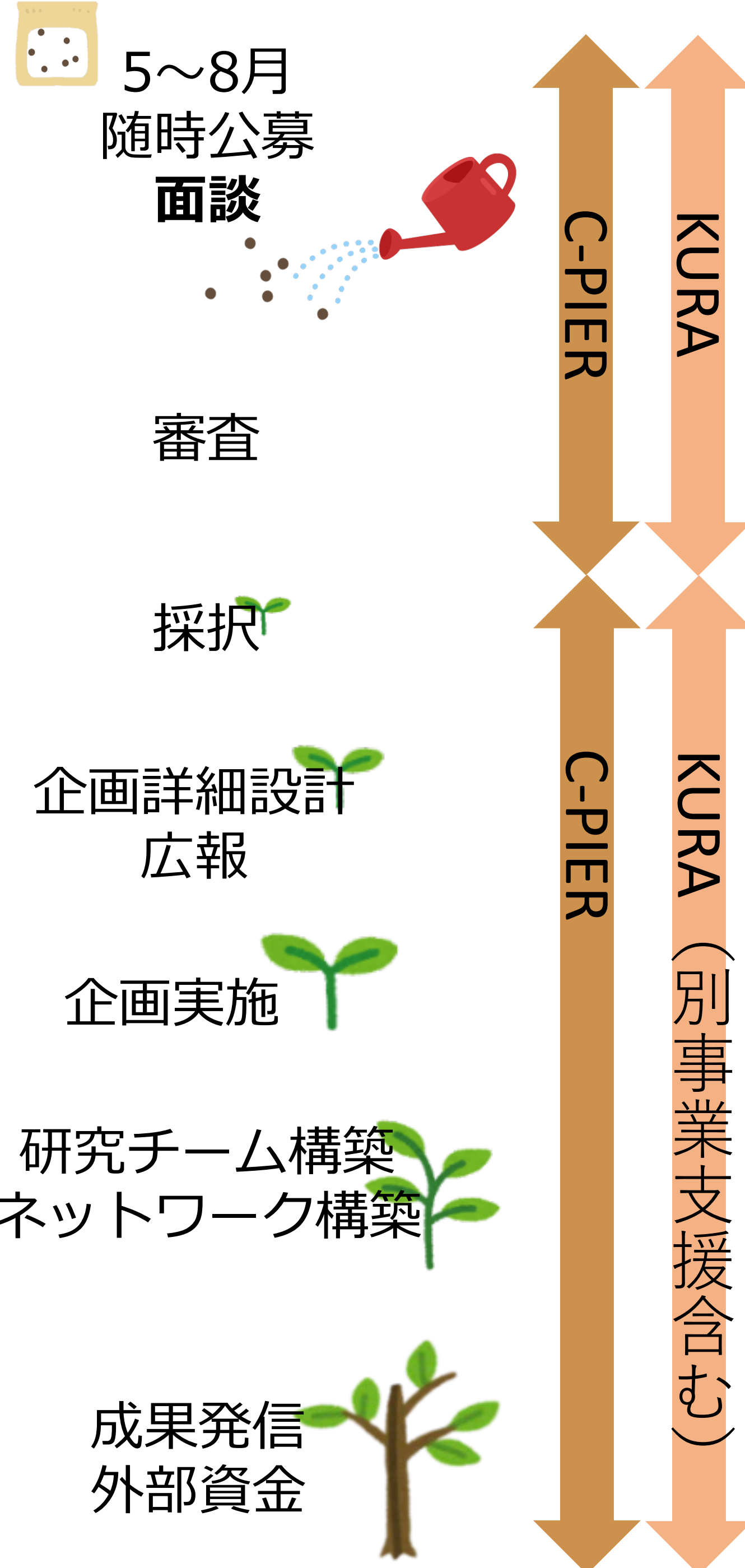
(1. 京都大学学術研究支援室, 2. 京都大学学際融合教育研究推進センター)

文理の枠を超えた「総合知」を創出する一つの方法として、学際研究の重要性もますます認識されつつある。しかし、学際研究を始めるには依然として様々な課題があり、取り掛かることすら容易ではない。そこで京都大学では、2013年度より学際研究が芽吹くための土壌（プラットフォーム）を構築するべく、学際融合教育研究推進センター（C-PIER）と学術研究支援室（KURA）が協働して学内ファンド「分野横断プラットフォーム構築事業」を展開している。研究者が学際研究を推進するために必要な能力を養い、本学における学際研究を活性化することに焦点を当てた本ファンドのもとに、学際研究の芽吹きを支える効果的な支援のあり方について紹介する。

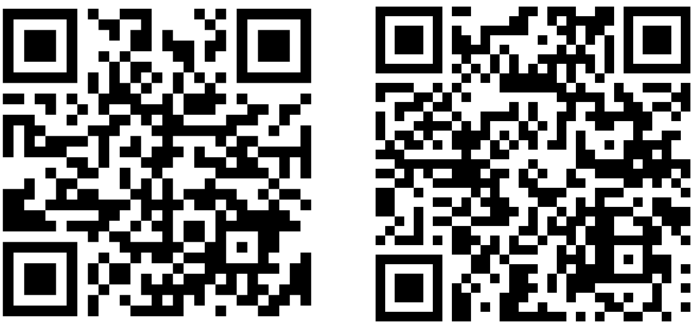
## 分野横断プラットフォーム構築事業（採択総数86件）

### ターゲット課題

- アイデアを醸成する機会がない
- 共同研究者が見つからない
- 学際研究を進める資金がない
- 広報が難しい
- 成果物を発展させる術がわからない



### 運営サポート体制 ※ 本ファンドの詳細はこちら →



#### 各種アドバイス

テーマ設定・企画内容アドバイス  
研究者紹介・広報/参加者集め  
ファシリテーション方法  
ディスカッション方法 etc.

#### 経費支援

250万円 / 5 - 10件  
会場費・広報費・招聘/出張費  
消耗品等 etc.

#### 広報支援

KURAのFacebook, Twitter  
その他, 伴走URAが適宜サポート

#### フォローアップ面談

アウトプットの確認  
今後の方向性アドバイス etc.

#### 成果発信支援

K.U.RESEARCHのWEBサイト  
Facebook・成果報告書を通じ  
研究プロジェクト発信, 成果蓄積

#### 研究者の声（応募動機）

- 多様な分野の研究者のネットワーク構築
- 異分野交流 / 討議の場の構築
- 共同研究の場の構築
- 知見を深める
- 理論や概念の拡張 etc.

代表者（人）	グループメンバー（人）
学際融合教育研究推進センター	学外 180
文学研究科	学生 72
白眉センター	医学研究科 13
経済学研究科	学際融合教育研究推進センター 12
ウイルス・再生医科学研究所	その他（所属未記載者等） 12
工学研究科	白眉センター 10
東南アジア地域研究研究所	工学研究科 8
医学研究科	学術情報メディアセンター 7
理学研究科	環境科学センター 5
地球環境学	学術研究支援室 5

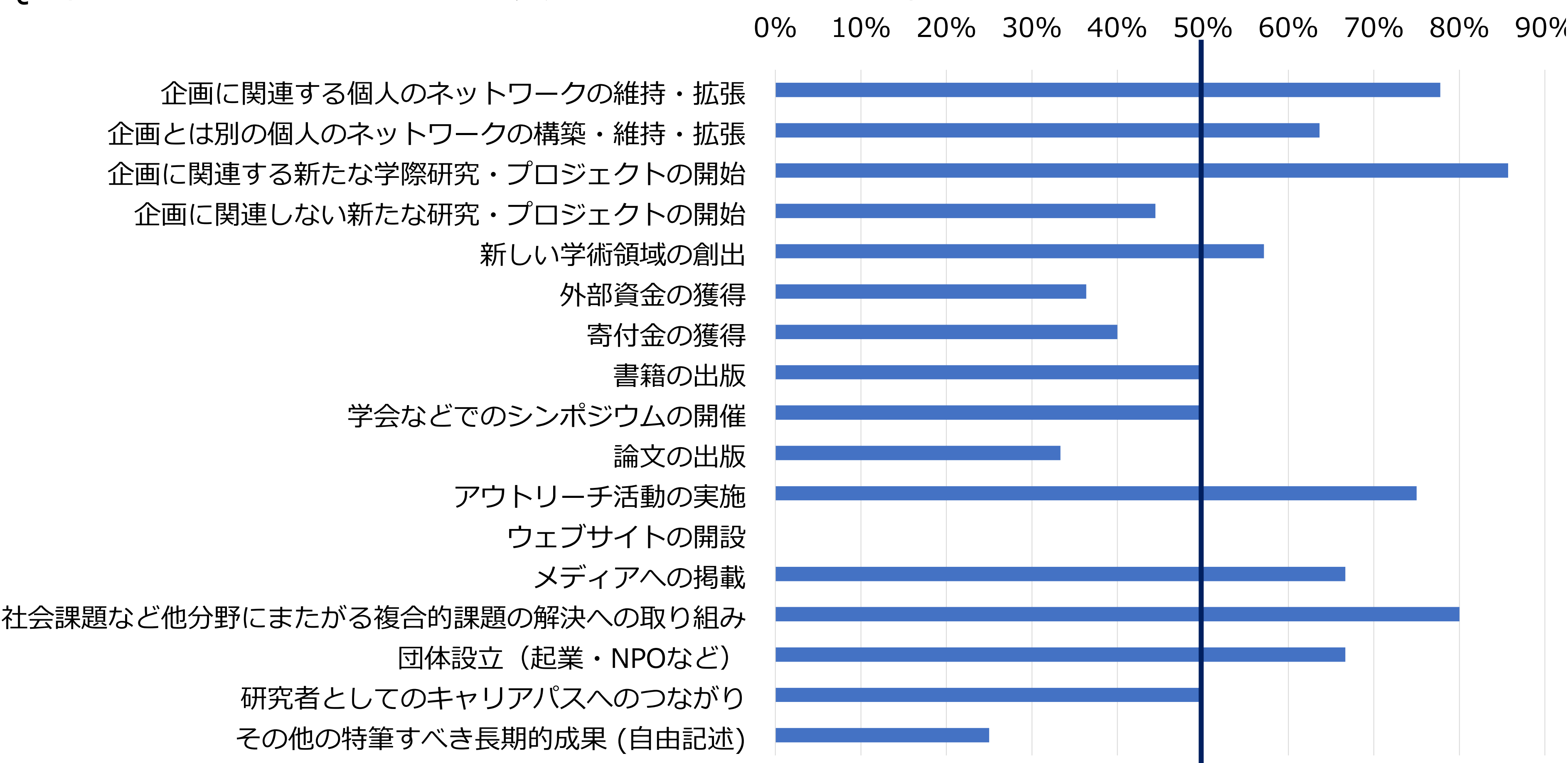
図. 採択企画メンバーの採択当時の所属上位10部局（累積）

#### 研究者の声（サポート内容について）

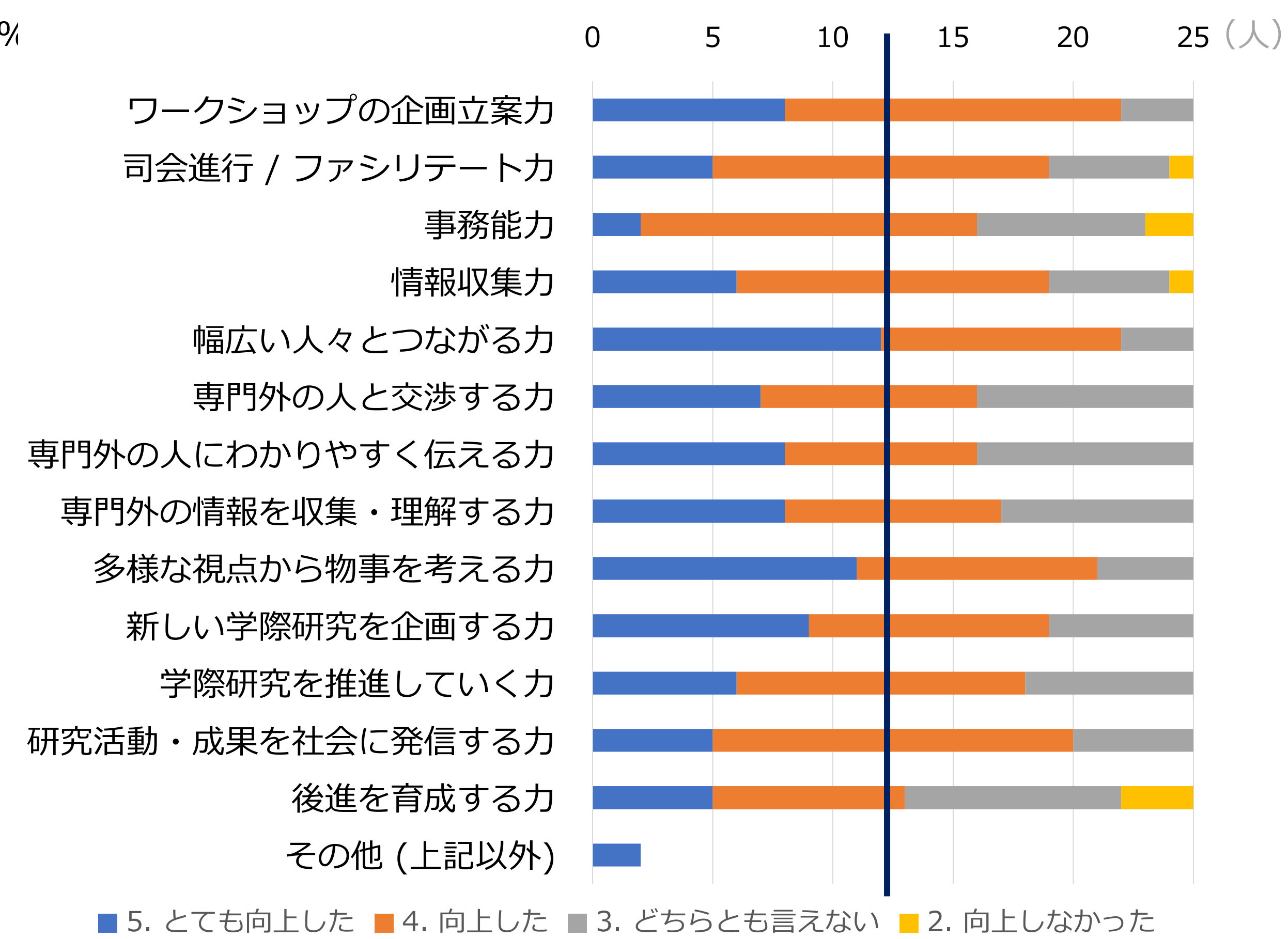
- ゆるゆると温めてきたアイデアをまとめ、応募してみようかというモチベーションとなった。
- 社会に向かって何かを呼びかけようとするとき、思い切ってやってみることを決め手となるのは、支援金額の多寡よりも何らかの「お墨付き」を与え、背中を押してもらったこと。

## 2013年度から2020年度採択企画代表者46名を対象としたアンケートの結果（回答数25件、回答率56.5%）

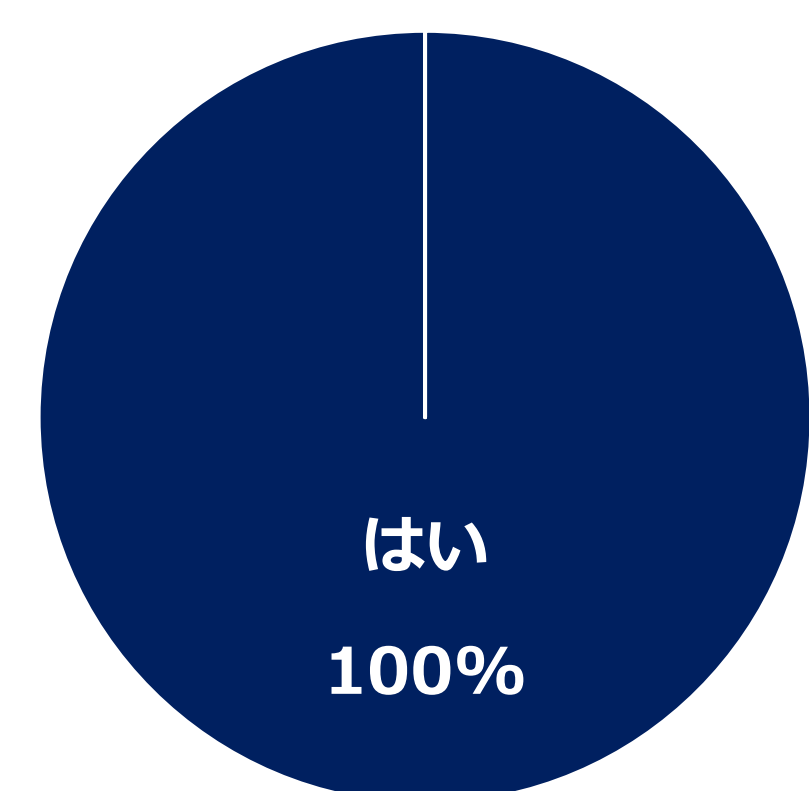
Q. 本ファンドがあったからこそ実現できたアウトカムは何か？



Q. 学際研究推進に必要な力は企画前と比較して向上したか？



Q. 今後も本事業のような学内の資金支援制度は必要か？



#### 研究者の声

- 芽出しのテーマのブラッシュアップとして用いるには非常に重要な事業
- 学際研究を始めるモチベーションになるだけでなく、資金獲得実績はその後の研究者のキャリアパスにおいて役立つ
- 比較的容易な申請で、自由な発想に対して、人的にも経済的にも補助を受ける機会は貴重
- 何かやりたいことがあってもどう始めたらいいのかわからないという研究者は多い。その「何か」にどう向き合うかということから（URA組織も共に悩みながら、様々な観・感があることを認め合いながら）支援できるような制度が発展していくことを期待したい。

## 学際研究の“芽吹き”を支える効果的な支援とは？

- 随時公募：**  
今、やりたい！をかなえる設計
- コンパクトな単年度経費：**  
気軽に最初の一步を踏み出す後押し
- 目的に即した経費の使途：**  
研究費ではなく「人とつながる」にフォーカス
- 充実した支援体制：**  
企画に寄り添い、必要なタイミングに効果的な支援

